

令和元年度 第2回瑞浪市市之瀬廣太記念美術館協議会議事録

日 時：令和元年10月3日（木）10時～10時45分

会 場：瑞浪市化石博物館レクチャールーム

出席者 <協議会委員> 柴田 増三（社会教育関係者）
間宮 弘一（学校教育関係者）
市之瀬 肇（学識経験を有するもの）
西尾 京子（家庭教育の向上に資する有するもの）
<事務局> 和田 光浩（館長）、和田慶一郎（事務局員）
欠席者 <協議会委員> 島村 節男（学識経験を有するもの）

1 あいさつ

柴田会長及び和田館長が挨拶を行った（内容は省略）。

2 報告事項

令和元年度の事業中間報告について報告した。

質疑・意見等

委 員：土人形づくりの参加者数は、昨年度より少なかったか。

事務局：昨年度の18名から12名に減じた。

委 員：受講者は、例年と同じ人が多かったか。

事務局：記録はとっていないが、同じ人が多いようである

3 協議事項

1) 令和2年度の事業計画について協議した。

質疑・意見等

・美術館の統合について

委 員：統合した場合、どれくらい美術作品の展示にスペースをとれるか。

事務局：スペースは少なくなると思われるが、まだ具体的な面積の計画はできていない。2～3年の話ではなく、もっと長期の計画になる。

委 員：企画展のできるスペースも設けるとよいのでは。

事務局：ご提案を考慮しつつ計画を作成し、今後提案したい。

委 員：大変重い課題であるので、それを念頭に計画の作成を進めていただきたい。

・土人形づくりについて

委 員：PRはどのようにしているか。

事務局：市の広報で告知をしている。また、今後は陶磁資料館で受講生の作品を展示できるような環境を作りたい。

・令和2年度の企画展について

委 員：令和2年度の企画展は行わないのか。

事務局：来年は、秋にねんりんピックや岐阜県文楽・能大会等の複数の大きなイベントが瑞浪市で開催予定であり、職員の対応が極めて困難であるため、見送りとしたい。ご理解いただきたい。

委 員：平尾氏の企画展は、来年度にまたがるが、来年度の予算で実施するのか。

事務局：すべて平成31年度の予算で対応し、12月の補正予算に計上する。

・展示について

委員：展示は誰がしているのか。学芸員はいるのか。

事務局：美術を専門とする学芸員はいないが、常設展示は市之瀬委員に相談しながら行っている。企画展については、作者本人の意向に基づいて行っている。

委員：受付で専門的な話はできないのは好ましくない。作品に関する質問は寄せられないのか。作品を見るだけではわからないこともあり、簡単なことなら答えられるようにしておくべきではないか。毎日でなくてもいいので、ボランティアガイドや専任の嘱託館長などの解説できる人を配置できないか。

事務局：受付業務を委託に出しており、現状では無理である。統合の際に指定管理に出せば可能であるかもしれない。

3 その他

- ・今年度末で委員の任期が満了するが、来年度以降も留任していただけるようお願いし、承諾を得た。